Ⅱ 卒業生の実習・雇用事例の紹介

Office 1　http://www.ipac-fujimoku.co.jp/

富士木材（株）横浜工場

三浦（みうら）　真明（まさあき）さん

平成１８年度　日野中央高等特別支援学校（高等養護学校）卒業

業　種　富士フィルム製梱包資材の製作・梱包
所在地　横浜市金沢区富岡東2-2-28
従業員数　35名
障害者雇用状況　1名

　富士木材（株）横浜工場は本社木材部の拠点工場のひとつで、主に富士フィルム製品の出荷・輸送用の梱包資材等を製作しています。
　三浦さんは、平成１９年４月に就職し、木材の加工・組み立て作業を中心とした仕事をしています。

三浦さん採用までの経緯

　三浦さん採用の経緯について、工場長の松田昌樹さんは言います。
「２年前に新聞に求人広告を載せました。それを見て１７～８人の老若男女（健常者）が応募してきました。学校から三浦くんの実習依頼があったのは、この時期と前後してのことでした」。
　そして松田さんは、三浦さんを含む応募者全員と面接を行いました。その時のことを振り返って松田さんは、「三浦くんを特別な目では見ませんでした。全員を同じ判断基準で面接した中で、一番輝いていたのが三浦くんだったにすぎません」と言います。
　松田さんは三浦さんを採用した理由について、「仕事ができるかどうかは二の次です。三浦くんの場合は、仕事に対する考え方や姿勢がとても前向きでした。『この会社で頑張りたい』という気持ちが、他の誰よりも強く伝わってきたので採用しました」と言います。
　その後三浦さんは、平成１８年６月に４週間、１０月に３週間、そして平成１９年１月に３週間の職場実習を経て、平成１９年４月から正式採用となりました。

「パレット」を作成する三浦さん

三浦さんの仕事

　取材の日三浦さんは、製品を載せるための「パレット」という木製の荷台を作っていました。作業はすべて三浦さんが一人で行っており、手際よく作業が進んでいきます。
　松田さんは、「だいたいのことはもう任せていますが、まだまだ半人前です。与えられた仕事はきちんとこなせますが、これからは自分で考えて判断して仕事をしていくことが大切です」と言います。
　一方三浦さんは、仕事を一人で任されていることについて、「就職してから１年の間に、すごく責任感が芽生えました」と言います。

職場での三浦さん

　職場の雰囲気も和やかで、三浦さんは先輩たちからかわいがられているそうです。松田さんは、「私たちは三浦君のことを障害者だと思ってはいません。仮にこの職場で、『障害者』という目で彼を見る人間がいたとしたら、その人には当社を辞めていただくことになるでしょう」と言います。

まもなく完成

　こう語る松田さんのもとには、最近、特別支援学校などからの実習依頼が増えてきているそうです。しかし、松田さんは言います。
　「実習を受けても、すべての人を採用することはできません。自分には人間をモノのように扱うことはできないので、辛いですね」。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

　三浦さんは、「今は仕事で精一杯ですが、少し余裕ができたら自動車の運転免許を取りたいです」と、目を輝かせます。

Office2 http://www.paltac.co.jp/index.html

(株)パルタック横浜支社 RDC横浜

小泉(こいずみ)　友和(ともかず)さん

平成１８年度　日野中央高等特別支援学校（高等養護学校）卒業

業　種　医薬品・化粧品等卸売業
所在地　横須賀市夏島町2873-17
従業員数　227名（RDC横浜）
障害者雇用状況　2名

株式会社パルタックは、大阪市に本社を置く化粧品・日用品および一般用医薬品卸のトップ企業です。「ＲＤＣ」とは、パルタックが扱う商品の供給・返品等、小売店へのサービス提供の拠点となる大規模物流センターのことで、横浜のほか全国１６カ所に所在しています。

ここは膨大な数の商品を保管する倉庫機能を有しており、小泉さんは主に倉庫内での商品の仕分け・梱包といった業務を行っています。

小泉さん採用までの経緯

センター長・木村茂樹さんの話によると、きっかけは学校からの職場実習依頼の電話だったそうです。日野中央高等特別支援学校では、生徒の就職を進めるため、様々な企業に在校生の職場実習をお願いしており、教職員が各種の求人情報やインターネット等を活用して、随時企業にアプローチしています。しかし断られるケースの方が圧倒的に多く、実習受入がなかなか進まないのも現実です。

しかし株式会社パルタックでは、本社が障害者雇用に積極的な考えを持っていたため、まずは実習で小泉さんを見てみようということになったそうです。

入念な商品チェック

小泉さんの仕事

小泉さんの最初の実習は、平成１８年１０月からの３週間でした。「思った以上に仕事ができて驚いた」というのが木村さんの印象だったそうです。また、「まじめで黙々と仕事をこなすタイプなので、集中力と細かさが要求されるここでの仕事がマッチするのではないか？」とも考えたそうです。その後小泉さんは、平成 19 年１月にも３週間の実習を行い、同年４月に正式採用となりました。

小泉さんは今では商品の仕分けや梱包、パソコンでのラベル作成等様々な業務をひとりでこなしていますが、最初の仕事はダンボールの組み立てだけだったそうです。木村さんは、「単純な仕事で自信や達成感、満足感を感じてもらい、徐々にメニューを増やしいろいろな仕事を覚えてもらいました。無理をせず丁寧に指導すれば、きちんと覚えてくれます」と言います。

また最近、朝から同僚がみんな出払ってしまい、小泉さんが持ち場で一人きりになってしまったことがあったそうですが、そのとき、すべての仕事の下準備を一人きりで整えたことがあったそうです。木村さんは、「あれには驚きました。いつの間に覚えたのでしょうかねぇ？」と笑っていました。小泉さん自身、「教えてもらわなくても自分でやり方を覚えたことが嬉しい」と言っており、大きな自信につながったようです。

仕訳した商品を運搬

企業の一員として

木村さんは言います。「小泉君の障害は意識していません。立派な戦力として働いてもらっていますから」。そして小泉さんに対して、「若干引っ込み思案なように思えます。もう少し自己アピールをしてもよいのでは？」と言います。物静かでまじめな面は小泉さんの個性であり長所でもあるのかもしれません。でも木村さんのこの言葉の中には、「一人前の仕事をしているのだから、もっと自信を持って大丈夫」という激励の気持ちが込められているように思えます。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

小泉さんの勤務時間は９時から５時までですが、毎朝必ず３０分前には出勤しているそうです。学生時代に比べ自由な時間は大幅に減ってしまいましたが、仕事は楽しいと言います。今一番やりたいことは「電車に乗っていろいろな駅でおりて、いろいろな場所を見て回ること」だそうです。

Office3　http://www.yaesufujiya.com/

八重洲富士屋ホテル

丹藤（たんとう） 憲（けん）さん

平成１６年度　日野中央高等特別支援学校（高等養護学校）卒業

業　種　ホテル
所在地　東京都中央区八重洲2-9-1
従業員数　女性４３名／男性９２名
障害者雇用状況　チェーン１１事業所で20名
（内部障害3名／聴覚障害4名／知的障害5名／視覚障害2名
肢体不自由4名／下肢障害1名／精神障害1名）

八重洲富士屋ホテルは東京駅八重洲南口から徒歩５分のシティホテルです。丹藤さんは平成１７年４月に入社。総務課購買係で働いています。

八重洲富士屋ホテルを運営している富士屋ホテル（株）では、１１事業所で計２０名の障害者を雇用していますが（平成２０年３月１５日現在)、八重洲富士屋ホテルとしては丹藤さんがはじめての雇用となります。

丹藤さん採用までの経緯

丹藤さんの上司である総務課長の古賀正道さんは言います。「きっかけは学校からの実習依頼の電話でした。本社が障害者雇用に前向きな考えだったので受け入れることにしました」。丹藤さんは、平成１６年５月から計３回このホテルでの実習を行い、平成１７年４月に正式採用となりました。古賀さんは丹藤さんの採用の決め手について、「記憶力の良さと飲み込みの早さに加えて、明るくて周囲の人から好かれる人物だったことです」と言います。

富士屋ホテル外観

丹藤さんの仕事

丹藤さんの職場である総務課は、フロント横の扉を隔てたすぐ裏側にあります。八重洲富士屋ホテルは外観・内観ともとてもきれいで都会的ですが、総務課などの事務セクションは、対照的に狭く雑然とした空間になっています。

落ち着きのあるフロント

慣れた手つきでパソコンを操る丹藤さん

古賀さんは言います。「建物・敷地の大部分のスペースをお客様に提供するのがホテルという施設なんです。だから従業員のためのスペースというのは極めて狭いんです」。

丹藤さんは主にこの総務課内の自席で、パソコンによる棚卸しの入力作業を行ったり、搬出入車が乗り入れるホテル裏側の検品室で、仕入れ品の検品、伝票発行等の業務を行っています。

検品室には、多種多様な消耗品や珍しい食材等が頻繁に搬入されるため、「野菜の種類や調味料の種類を覚えるのが大変です」と丹藤さんは言います。

職場の丹藤さん

古賀さんは丹藤さんへの仕事の指導について、「確かに苦手な分野もあります。しかし得意なこともたくさんあります。それを見極めて時間をかけてきちんと指導し、少しずつ難度の高い業務に挑戦してもらっています。そうすれば、どんどん成長してくれます」と言います。そして現に丹藤さんは今、このホテルの立派な戦力となっているとのことです。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

丹藤さんは、その明るい性格から職場の人気者だそうです。職場では先輩社員から矢継ぎ早にツッコミを入れられ、調理部門や仕入れ先の人たちからは弟のように親しまれ、「ウチの職場で働かないか？」などと声をかけられることもしばしばあるそうです。

ホテルは、バックヤードのこうした明るい雰囲気があるからこそ、利用者に安らぎや楽しさを与え続けられるのかもしれません。丹藤さんはそういう意味でも、欠かせない存在になっているのかもしれません。

検品室で納入業者への対応